

沖縄戦戦没者の遺骨混入土砂を辺野古新基地などの埋立てに使用しないことを求める意見書

悲惨な沖縄戦で命を落とした戦没者の遺骨が混入した土砂が、辺野古新基地建設の埋め立てに使用されようとしています。

現在、沖縄県議会をはじめ沖縄県内の多くの市町村議会で遺骨混入土砂を使用しないよう求める意見書が決議され、県民もまた大きな関心をもって行方を見守っています。

糸満市摩文仁を中心に広がる南部地域は、沖縄戦で犠牲を強いられた住民や命を落とされた兵士の遺骨が残されており、戦後76年が経過した今でも戦没者の遺骨収集が行われています。

沖縄戦で犠牲になった方々のご遺骨はもちろん、その血が染み込んだ土砂を埋め立て事業に用いることは人道上許されることではなく、政府におかれましては、次の事項を実現されるよう強く要望します。

- 1 悲惨な沖縄戦の戦没者の遺骨等が混入した土砂を埋立てに使用しないこと。
- 2 日本で唯一、住民を巻き込んだ苛烈な地上戦があった沖縄の事情に鑑み、「戦没者の遺骨収集の推進に関する法律」により、日本政府が主体となって戦没者の遺骨収集を実施すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

令和3年6月29日

尾 道 市 議 会

関係行政庁及び国会あて